

# 園だより

## 5月号

令和5年4月28日  
新宿区立西戸山幼稚園  
園長 佐藤 淳穂



### 私のクラスになっていく

園長 佐藤 淳穂

入園、進級して一か月が経ちました。連休明けからいよいよお弁当が始まる3歳クラスですが、今日はテーブルに着席してお茶タイム。手を洗って、ポケットのハンカチで手を拭いて、家から持参しているプラスチック製のカップを持ってきて、自分の場所に椅子を運んで…集団生活での手順は実にたくさんあります。一つ一つ自分で行って、たどり着いた席には友達が待っています。それぞれが自分のカップを持って集う…それだけでワクワクする様子です。街のレストランに行っても、子どもだけでテーブルに着くことはあまりないでしょう。幼稚園は子どもの世界。ままごとではなく、本物のお茶を友達と一緒にいただくことで、ちょっぴり大きくなった気分になるのかもしれない。

Aさんが空のカップをテーブルに当ててカツンと音を立てました。同じテーブルの子どもはすぐにその音に反応して真似をしました。カツン、カツン、カツン…二人、三人、その行動はあっという間にクラス中の子どもに連鎖してしまいました。部屋中に響くカップの音…。おもしろいことに、その音は一定のリズムになっていて、20名のカツン、カツンはぴったり合っているのです。食器で音を立てることは行儀のよいことではありませんが、担任は注意するのではなく、子どもたちの舞い上がるうれしい気持ちを受け止めながら、静かにカップにお茶を入れて回りました。

カップにお茶が入ると自然に静かになりました。「さあ、おいしいお茶をどうぞ。」と担任が声を掛けると、「いただきます！」とみんなの元気な声が揃いました。お茶タイムはみんなの気持ちがつながる楽しい時間になりました。

このような日常の積み重ねによって子どもたちがつながり、クラスがつくられていくことを感じる場面でした。帰りがけに担任が読んだ絵本の1ページにみんなで大笑いをする、泣いている友達が担任に寄り添われるのを見て自分のことのようにほっとする…そんなたわいもない出来事で、友達はクラスメートになり、学級を自分の居場所だと感じるのです。

チャットGPTなるものが出現し、社会はAIの時代になりました。PCやタブレットの画面ではできない直接体験や人との共感がこれまで以上に重要視されています。人の温かみ、声や音の重なり、人や物に触れたときの感触や感情…クラスづくりのプロセスには、心豊かな生活に必要な要素がたくさんあります。



昨日は、4歳クラスでこいのぼりを作りました。並んだ個性豊かな25匹のこいのぼりがクラスの一体感を感じさせてくれます。テラスでは、数人の5歳児がソラマメにびっしりと付いているアブラムシに驚いています。「こっちは羽が付いている。」「テントウムシは食べるらしいよ。」頭を寄せながら情報を交換する姿に、尊重し合う友達関係の兆しが見えます。日々の暮らしを丁寧に見取り、育ち合う学級をつくっていきたいと思います。